



ポジティブリスト制度 に向けた農薬ドリフト対応 ～ドリフト低減型ノズルの早期実用化～

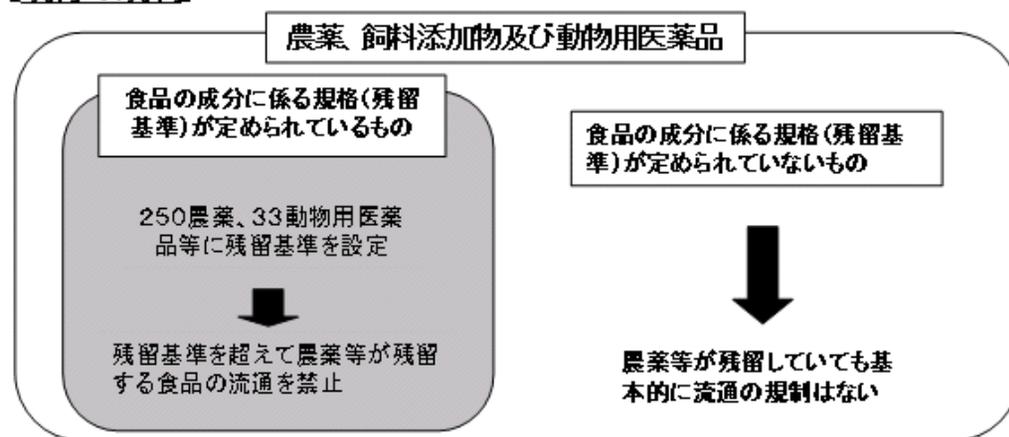
平成18年3月
農林水産省生産局農産振興課

食品中の残留する農薬等の基準に係るポジティブリスト制度の導入について

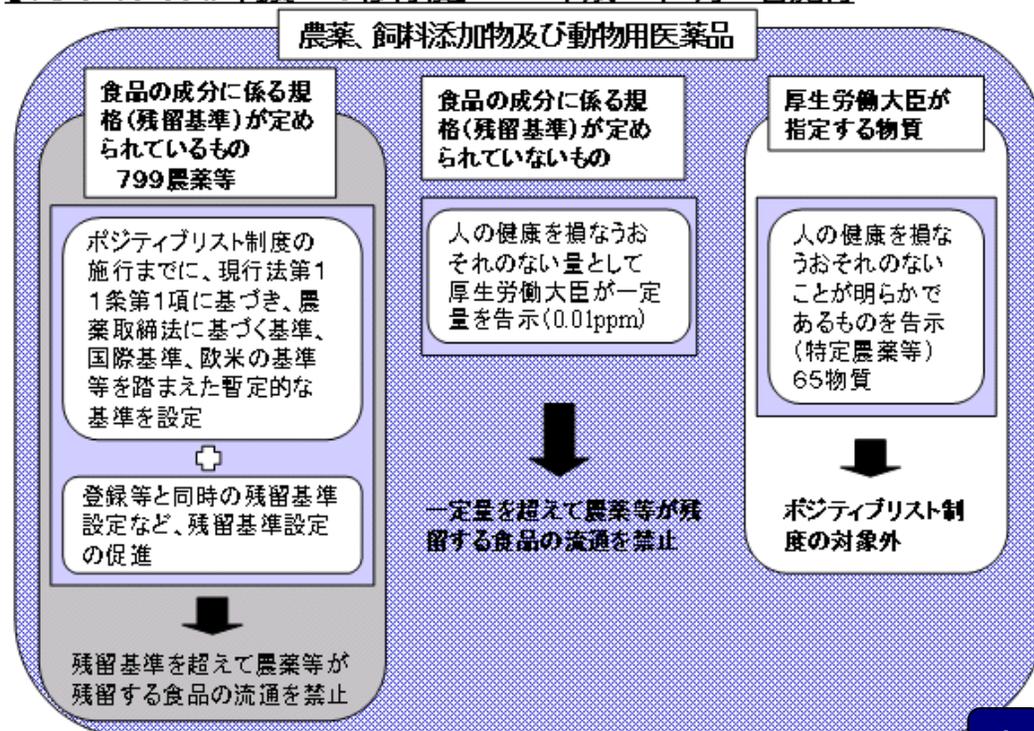
- 厚生労働省では、平成15年5月、食品衛生法を一部改正(平成15年法律第55号)
- 食品に残留する農薬、飼料添加物及び動物用医薬品(以下「農薬等」という。)に関し、ポジティブリスト制度(農薬等が残留する食品の販売等を原則禁止する制度)が平成18年5月末までに導入される旨規定
- 平成17年11月29日、改正食品衛生法の施行期日を定める政令(平成17年政令第345号)が公布

ポジティブリスト制度が、平成18年5月29日から施行

【現行の規制】



【ポジティブリスト制度への移行後】……平成18年5月29日施行



※平成17年11月29日付けで関係告示を公布

総合的な農薬ドリフト低減対策の取組の推進

安全な農作物の生産・流通に向けた 生産現場での実践が不可欠

- 散布時の風向きと風速を考慮
- 作物に近接した適正散布
- 圃場の端での散布の注意
- 散布圧力、散布風量の考慮
- 近接栽培作物の把握、
近接圃場農家との連携
- ドリフトしにくい散布ノズルへの交換
- 飛散遮蔽シート・ネットの活用
- ドリフトしにくい農薬の利用(剤型など)

【啓発・指導】

「農薬散布時のドリフト防止対策ガイダンス」「地上防除ドリフト対策マニュアル」等による生産現場への啓発、指導の徹底

【ドリフト対応防除機等の開発・普及】

民間ベースでの既存防除機の改善
次世代緊プロでのドリフト低減防除機の開発

- ・ 環境保全型汎用薬液散布装置
(ブームスプレーヤタイプ)
- ・ 果樹用農薬飛散制御型防除機
(スピードスプレーヤタイプ)
次世代緊プロでの開発成果の早期実用化
- ・ ドリフト低減型ノズル
(H17.12研究一部完了、実用化決定)

次世代緊プロ「環境保全型汎用薬液散布装置ードリフト低減型ノズル」の概要

ドリフト(漂流飛散)しやすい微細粒子を大幅に削減
各種ブームスプレーヤ及び動力噴霧機に装着可能
作業能率及び農薬付着性能は慣行ノズルでの作業と同等

< 開発ノズルの概要 >

- ドリフト低減型ノズルは、ポジティブリスト制度の導入に向け、平成15年度から実施している次世代緊プロ「環境保全型汎用薬液散布装置」の開発成果の一つとして早期実用化。
- 「空気非混入型」及び「空気混入型」の2種類が開発され、乗用トラクターと乗用管理機搭載式のブームスプレーヤ、動力噴霧機に装着が可能。
- 農業機械化促進法に基づき開発成果の実用化を促す「高性能農業機械実用化促進事業」(実施機関:新農機(株))により共通部品化を図り、ドリフト低減効果の高い空気混入型を一部先行して、農業機械メーカー等より平成18年3月に市販化。

ドリフト低減型ノズル



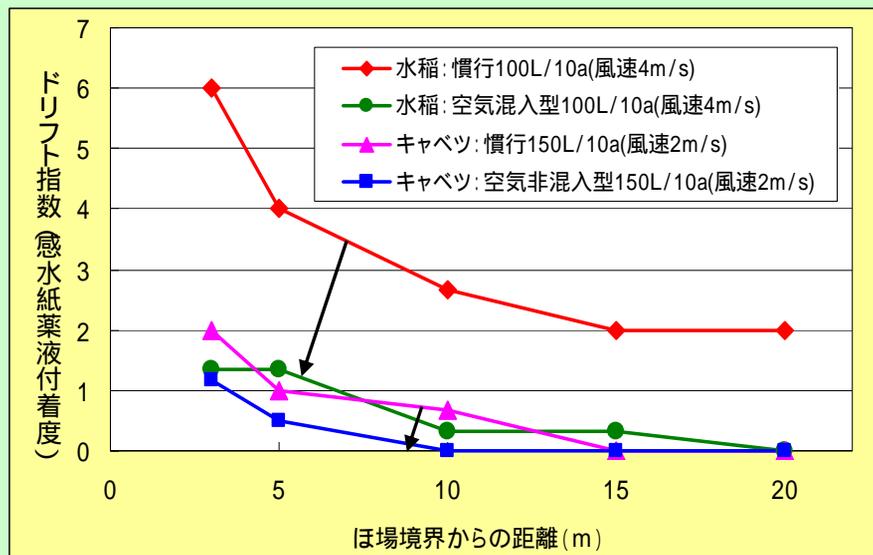
空気混入型

空気非混入型

< ドリフト低減型ノズルの外観及び性能 >

- ◆ 空気混入型
(特徴) 噴霧平均粒径が慣行ノズルの3~4倍(240~330 μm)で、薬液の付着性能を維持しつつ、ドリフト要因となる農薬微細粒子を1/4程度に削減
- ◆ 空気非混入型
(特徴) 噴霧平均粒径が慣行ノズルの約2倍(110~180 μm)で、薬液の付着性能を維持しつつ、ドリフト要因となる農薬微細粒子を半減

< 開発ノズルのドリフト低減効果(水稲・キャベツの試験事例) >



供試ノズル	ドリフト指数				
	地上トラップ (3列平均) 距離: m				
	3	5	10	15	20
水稲: 慣行100L/10a(風速4m/s)	6.0	4.0	2.7	2.0	2.0
水稲: 空気混入型100L/10a(風速4m/s)	1.3	1.3	0.3	0.3	0.0
キャベツ: 慣行150L/10a(風速2m/s)	2.0	1.0	0.7	0.0	0.0
キャベツ: 空気非混入型150L/10a(風速2m/s)	1.2	0.5	0.0	0.0	0.0

(注) ドリフト指数とは、感水紙面への薬液の付着液斑の被覆面積率に基づいた指数で、0～10の11段階で指標化したもの

< ドリフト低減型及び慣行ノズルの噴霧状況(水稲の100L/10a散布例) >

